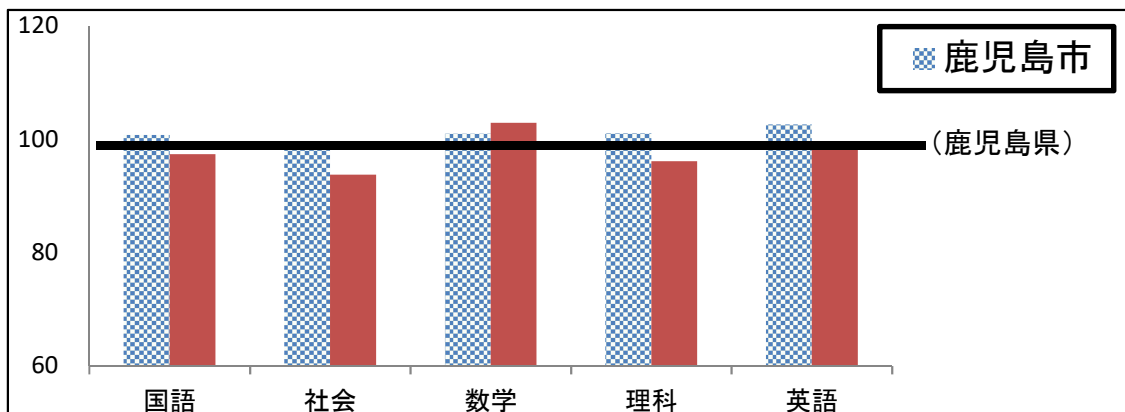


令和5年度鹿児島県学習定着度調査結果について

鹿児島市立谷山中学校2年

1 自校・市・県平均正答率の比較 (R6. 2. 5現在の速報値)

〈 鹿児島県平均正答率を100とする棒グラフ 〉



2 自校の課題に対する改善策

〈国語〉

1年時より教材文の読み取りや比べ読み、鑑賞文作成等に力を入れたため、自分の考えをもち、周りとの意見交流で深く考え意見を書く活動に対して積極的に取り組む姿がある。しかし、話すこと・聞くことに関しては、通過率も低い。分かりやすく伝えたり、相手の発言を正確に理解したりする力が付いていないため、ペアやグループ等で相手の意見に学ぶ機会を増やす必要がある。個人で考えをまとめる活動の後に、他者から学ぶ活動を取り入れ、視野を広げたり、新たな視点を得たりすることを促し、自分の考えを再構築させたい。

〈社会〉

全体で見ると、県平均と比べて低い結果となっている。観点別に見ると、特に思考・判断・表現が低くなっている。地理的分野・歴史的分野ともに思考・判断の問題の正答率が低かった。さらに、答えは理解しているが、漢字間違いで失点する生徒も多く見られた。全体で見ると基礎的・基本的な語句などの定着は感じられたが、思考・判断の問題の誤答や無回答が多く感じられた。今後の改善策として、授業時に学んだ重要語句などを使って自分の考えをまとめさせるなど記述の問題に取り組ませる機会を増やしていきたいと考える。

〈数学〉

観点別のデータから知識・技能は70%を上回り基礎・基本の定着が見られるが、思考・判断・表現では60%を下回った。問題別のデータからみると、「作図の手順」「文字を用いた説明」「証明の根拠」「座標の読み取り」「適切なデータの選択」の問題で正答率60%を下回った。また、無回答が3.4%を占めていたので、課題設定を改善する必要がある。基礎・基本の計算は定着しつつあるので、継続的に授業の導入で計算演習に取り組ませていく。関数の単元は式・表・グラフの関係性も含めて進級前に復習する時間を設ける。そして、生徒が主体的に学びに向かい、「わかった」「できた」の姿を大切にしながら、学び合える授業を展開できるように努めたい。

〈理科〉

全体的に各分野の通過率が昨年度と比べて向上した。粒子の分野では通過率が7割を超えていたが、県平均を上回ることができなかった。エネルギーの分野の通過率が比較的low、具体的には、フックの法則の理解・定着が不十分だった。また、計算問題などに苦手意識を持つ生徒も多く、公式や考え方の確実な理解が必要である。授業内では授業開始時に振り返りを行った。その成果が2年生での学習内容で見られた。また、生徒が自ら学ぶことができるような課題の提示やnavimaの活用、生徒の意欲がでるような学習課題の工夫や取組を今後とも継続して進めていく。

〈英語〉

知識・技能と思考・判断・表現のバランスは取れていると考えられる。領域別に見ると聞く力はよく身に付いているが、話すことと書くことの通過率が低い。このことから、自分の考えや思いを伝えることが苦手であると推察される。今後の課題としては、話す力、書く力をつけて自分の考えや気持ちを会話や文で表現する力を育てることである。授業の中では、会話練習や英作文作成の活動を多く取り入れ、表現力を高める。語彙力を身につけるために定期的に単語テストを実施する。ペアやグループで協力し、英文を作ったり会話したりするなど助け合い学習(学び合い)を行う。

〈全体的に〉

資料やグラフから情報を読み取り、根拠をもって説明したり表現したりすることに課題が見られました。各教科の授業等において、様々な資料の読み取りを行い、他者と考えを交流する活動を取り入れていきます。